

砺波総合病院（砺波市新富町、伊東正太郎院長）は11日、わずかな採血で早期発見が困難な膵臓がんなど消化器系がんを遺伝子レベルで判別する「マイクロアレイ血液検査」を、5月から県内で初めて導入すると発表

砺波総合病院

来月
から

表した。がんを9割以上の高精度で発見し、部位も特定できることから、早期発見・治療に効果が期待される。検査は血液5ccを採取するだけで、エックス線被ばくや薬剤投与、胃カメラなどが必要なく、患者への

採血5ccでがん検査

負担が少ないのが特徴。血液から遺伝物質のRNA（リボ核酸）を抽出し、がん発症による反応を調べる。対象は胃、大腸、膵臓、胆道などのがんで、CTやPETなどで確認できない早期がんでも発見できる可能性がある。同病院健診センター（瀧鈴佳所長）で採血し、民間検査機関「キュービクス」（石川県野々市市）で解析する。1週間で判別する。検査は金沢大附属病院消化器内科の金子周一教授らが2007年から臨床試験を開始、砺波総合病院などが治験に協力してきた。検査料6万円で健康保険の対象にはならない。